

報告事項（5）

資料5

令和3年度路線バス動態調査の考え方について

1. 調査の目的

市内バス路線網の利便性向上を図ると同時に、利用者数の増加と収支の改善に向け、乗合旅客自動車運送事業の最適化を検討するにあたり、基礎資料となるバス利用者の移動状況を把握することを目的に、「路線バス動態調査」を実施します。

2. 令和3年度路線バス動態調査（案）の概要

調査目的

既存の乗降実績では把握しきれない、各路線バス利用者の移動状況（乗車バス停と降車バス停、出発地と目的地、移動目的等）を調査することで、各路線の旅客流動（主として日中帯）を把握することを目的とします。

調査対象

- 市内路線バスとして

令和2年度	新幹線市街地線乗車客、南北循環線乗車客（日中帯を中心に調査）
令和3年度	新幹線生地線乗車客（日中帯を中心に調査）、生地循環線乗車客
令和4年度	（予定） 石田三日市線、池尻線、愛本コミュニティタクシー、デマンドタクシー

調査方法

- バス車内での手渡しによる調査票の配布
- バス車内での調査票の回収（状況に応じ郵送により回収）

調査日程

- 令和3年度：11月のうち平日の1日を選定する予定（コロナ禍の状況を勘案）

調査項目(案)

- 利用バス停（乗車、下車）
- 出発地・目的地
- 利用目的
- その他

補足

- 本調査結果については、各調査路線のバス停ごとの乗降実績と照合し、その整合性を確認します。
- 路線バス見直しの直近の課題は、運行の効率化と収支の改善であるため、主要なターゲットを想定しながら、具体的な路線バス運営の見直し方法について検討を進めていくこととしております。